

文野久原西鄰

千利休のにじり口 茶室には踊り口（にじりぐち）と呼ばれる狭い入り口が設けられています。この踊り口は、茶聖と称せられる千利休の考案とされており、現存する最も古い茶会記「松屋会記」では、「淀川の船

仕始めるなり」とあり、船の低い屋根をくぐるの
が説ひるよつだと面白がつたことから着想を得た比
の記述があります。淀川の何氣ない情景から、侘
び寂びの世界と俗世の境界を見出だした感性には
感服するばかりです。

和室の作として傳承される最も古の茶室「待庵」（国宝）にもこの彫り口が設けられていますが、この壁下地には淀川の霞が使用されているそうです。



鈴見の松と別子山
(&トロッコ列車)

「鈴見の松」は枚方市に伝わる「鶴の思返し」の昔話。別子山（べっしやま）はその舞台となつた場所です。

た。二人は子を授かりました。だが、天女は娘により天界に帰らなければならず、山の頂上で子に別れを告げるのでした。以来、この山は別子山と呼ばれ、そこにあつた松の木は「鈴見の松」として語り継がれています。

しかし、別子山は昭和15年に淀川堤防増築の折にトロッコで土砂を削りだされ、今はその姿を見ることはできません。

この元・別子山の東端にある岡東公園には、何代目かになる鈴見の松が、看板と共に今もひつそりと植えられています。



枚方市岡東町16（岡東公園）。京阪枚方市駅から徒歩2分。

夜歩き地蔵

夜歩くお地蔵さん。江戸時代の頃、枚方宿には多くの旅籠屋がありました。そこでは飯盛女（めしもりおんな）たちが、貧しい家族を支え、借金を返すために働いていました。

夜歩くお地蔵さん。江戸時代の頃、枚方宿には多くの旅籠屋がありました。そこでは飯盛女（めしもりおんな）たちが、貧しい家族を支え、借金を返すために働いていました。



枚方市枚方元町
6。京阪枚方公
園駅から徒歩2
分。

籠屋を辞めるには多額の
お金が必要で、若い二人
は思いつめ、心中を図り
ますが、「新七」だけが
生き残り、心中の罪を受
け斬首されました。その
翌日、枚方宿の飯盛女た
ちは泣きながら、お地蔵
さんの前で二人を弔いま
した。

枚方・大塚の渡し

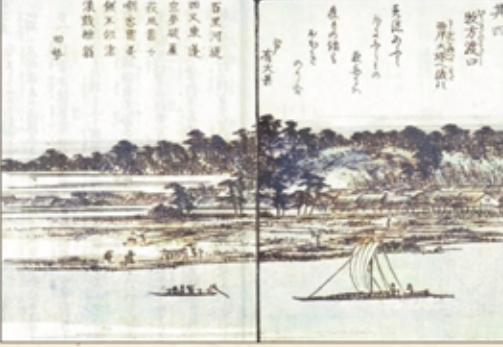
「枚方街道」は枚方宿と芥川宿（高槻市）を結ぶ約7.8kmの旧街道です。

頻繁に利用されていたようす。現在には、三矢町の道標に「左枚方街道・渡場」と名を残すのみですが、高槻市側は街道沿いに案内看板を複数設置するなど保存が進められています。

この街道が珍しいのは渡し舟も含まれていたこと。渡船も立派な「道」だったのです。当時の人にとって渡し舟がいかに身近な交通手段であつたかがわかりますね。

余談ですが、資料をよく見ると「牧方渡口」になっています。枚方は昔からよく間違えられていますね……。

枚方市三矢町3-12。京
阪枚方公園駅から徒歩4
分。



詫びて面白とて易(=利休)仕始めるなり」とあり、船の低い屋根をくぐるのが詫ひるよつたと面白がったことから着想を得たとの記述があります。淀川の何氣ない情景から、侘び寂びの世界と俗世の境界を見出だした感性には感服するばかりです。

利休の作として伝えられる最古の茶室「待庵」(=国宝)にもこの踊り口が設けられていますが、この壁下地には淀川の霞が使用されているそうです。

The illustration depicts a traditional Japanese landscape with a river or lake in the foreground. A small boat with a single occupant is visible on the water. The background shows a dense forest of tall trees, likely pines, with a rocky shoreline or mountainous area visible through the branches. The overall style is characteristic of Edo-period woodblock prints.